



建交労



2019年10月6日
 建交労神奈川県南支部
 2019年秋季年末闘争
 推進ニュース 58 通算 157 号
 発行責任者 佐藤 章

日弁連・医療機関・建交労が共同して 10.18 健康チェック・対話・アンケート活動を実施

建交労神奈川県南支部は、10月18日にトラックの日の行動を神奈川県大和市内にある東神トラックステーション(TS)で実施しました。この行動は例年10月9日に行っていますが「トラック現場の実態調査を行いたい」との日本弁護士連合会(日弁連)からの要請に応じて建交労全国トラック部会が神奈川県の実施を希望したことによるものです。

日弁連の労働問題に関わる弁護士さん等は、異常な長時間労働や過労死多発などで社会的問題となっているトラック現場の過酷な実態に注目し、現状を改善するための行動のはじめにトラック労働者から直接話を聴くことを決めたということで、この日の行動には群馬・埼玉・東京・徳島・鳥取・山口県の各担当弁護士さんが参加をして



弁護士による無料労働相談の看板を掲げたテント

トラックドライバーと熱心に対話をされました。

また、健康チェック活動には毎年お世話になっている神奈川北中央医療生活協同組合の看護師さん、健康運動指導士(組織部長)さん、全日本民主医療機関連合会(民医連)の新聞編集員さんなど4名が参加をしてトラックドライバーに積極的に声をかけながら健康チェックを行って頂きました。



北中央医療生協の仲間が健康チェックの準備中

さらに、日弁連との初めての共同行動を成功させるために全国トラック部会の鈴木事務局長、建交労関東トラック協議会の奥貫議長(埼玉)、中島副議長(東京)、世永事務局長(東京)、中央本部の福富書記次長も参加をして頂きました。

そこに地元の神奈川県南支部から佐藤委員長、清野副委員長、大島書記長、金崎書記次長、小島執行委員、須田執行委員、内外液輸分会三浦書記長、三昭運輸分会2名、合同分会1名が加わり総勢25名の行動となりました。

例年は健康チェック用に2つの机をTSの休憩施設前に出して医療生協の仲間の協力を得て総勢10名前後の参加で行っている行動ですが、今回はテントも2張り出して雰囲気盛り上げ、雨模様だった天気を文字どおり吹き飛ばすように元気の出る行動となりました。



健康チェックを受けるトラック運転手

アンケート回収と健康チェック人数は例年を大きく上回る過去最高の到達！



次々に健康チェックを受けるトラック運転手

路で待機するか、さもなければ休憩を諦めてTSを出ていくことになります。そうした時間帯になると対話とアンケート活動もストップしてしまうことになります。

それでも、今回のトラックドライバーとの対話・アンケート活動では弁護士さんが一緒であることもあってか、声をかけた多くのドライバーは、弁護士さんが用意した「28項目もの設問があるアンケート」に10分近くもかけて根気よく答えてくれました。

賃金の設問に対しては「日給8千円」といった低賃金や「歩合給・請負給などで残業代は一切なし」といった回答も少なくなく、トラックドライバーの劣悪な賃金実態が相変わらず放置されていることが示されていました。そのことも反映してか「働き方改革」で残業が減少して不満を持つドライバーも少数ではありませんでした。

弁護士さんもトラックドライバーの声を直接耳にすることでトラック労働の認識を新たにしました。

一方、医療生協の仲間による健康チェック活動にも応じるドライバーが多く例年4～5名程度の受診者が今回は過去最高の15名となりました。

昼食休憩をはさんで行った対話とアンケート、健康チェック活動は午後2時に打ち切り、まとめの集会をおこないました。まとめの集会では弁護士さんから「非常に新鮮で興味深い活動になった」といった趣旨の報告がされました。



まとめの集会后に記念写真に収まる行動の参加者

テント設置や打ち合わせを行い午前10時から4班に別れてドライバーとの対話活動を始めました。

東神TSは大型車・普通車を合わせて約100台を収容できる大型TSであるためトラックの立ち寄り頻度は頻りにあります。しかし、多くのドライバーはフロントガラスのカーテンを引いて休息中ですから場内の駐車スペースは常に満車状態です。

したがってTSからトラックが出ていかない状態がしばらく続くと、駐車を求めて立ち寄ったトラックドライバーは空きスペースができるまで場内の通路で待機するか、さもなければ休憩を諦めてTSを出ていくことになります。そうした時間帯になると対話とアンケート活動もストップしてしまうことになります。



まとめの集会で報告をする鈴木事務局長

また、医療生協の方からは「脳の手術をしているが子供3人を育てるためにドライバーを止めることができない、というドライバーの話を聞いてドライバーの健康問題に改めて関心を強めた」という内容の報告がされました。

最後に全国トラック部会の鈴木事務局長から、回収した聞き取りアンケートの数が31名になったことを含め行動が成功したことを報告して行動全体を終了しました。31人からアンケート

を回収したのは神奈川では過去最高の到達でした。